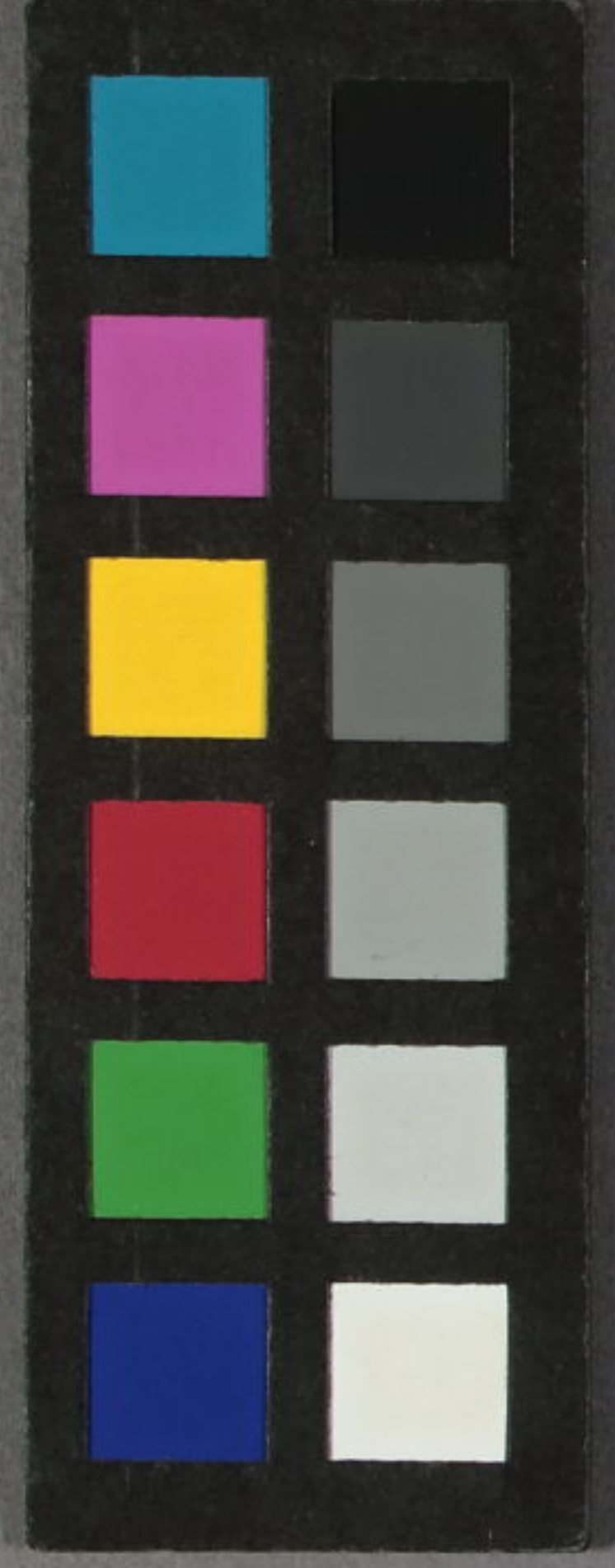




門 へ 13
 3286
 22

昭和十六年一月十一日
 尾野貴英氏 贈

宮嶋 續 栗毛二編 下卷

阿伏鬼を家出し 横島の津戸をさぐる
 繪の島沖の海乃あさるにいらし 西國方の
 舟大名の川松ありとく 紫の幕打すへ
 毛の繪馬下るど 袖のうさお さらするが紅白
 の噴流し 風よあさるひ 夜よひるがうて受く 髪
 いさす びよええさる びん船を小船あまこ
 二のうらび 藤拍子をさるてひきこらるる

めづらしく。板子と踏むと音。ツツタン。おやうの

おやうのうらやう。一めでものく。エイソリヤ。若枝も。エイエイ

おもしろく。舞もさうく。納り。代のた。落。ち。き

よ。飛。ハ。万。年。ヤ。エイソリヤ。お。恥。ハ。沢。渭。水。具。珠。珀

や。ヤヨ。エイヤ。た。ん。く。玉。の。光。ノ。ニ。キ。ク。唐。本。ば。く。り

ノ。ホ。ニ。ホ。あ。ん。い。よ。く。エイ。コ。ン。グ。ワ。ッ。ど。ク。ナ。エ。ト

イ。ろ。わ。る。め。ん。ど。や。ア。移。入。ソ。ふ。さ。り。え。の。の

ぶ。と。を。着。よ。か。う。い。ふ。取。ぐ。一。た。い。や。か。く。め。の

ど。一。さ。よ。あ。や。い。の。ぞ。ん。と。こ。も。し。れ。て。の。け。と

酒。買。ふ。て。入。ま。く。す。ま。う。う。う。こ。え。ん。の。せ。ろ。く

う。さ。ま。う。く。居。こ。り。の。紙。う。ん。と。を。い。め。う。春。の

く。る。り。と。恥。が。酒。と。り。つ。く。居。ろ。う。ま。さ。い。ハ

ま。い。く。え。ん。さ。ん。せ。ん。下。ヤ。奇。め。な。エ。ろ。あ。り。や。い

ト。の。あ。せ。う。が。ぢ。さ。ん。の。酒。移。入。び。さ。う。と。め。の。う。合。さ。う。く

これ。と。ん。ま。ば。り。の。ま。よ。う。や。お。せ。う。も。他。の。男。も。あ。な。ん。と。こ

り。な。ん。て。い。ろ。ひ。ろ。く。コ。リ。ヤ。お。り。う。い。ア。ノ。お。う。や。う。ハ

目。と。こ。う。ま。う。ぬ。ぢ。ら。そ。め。と。標。紙。く。づ。く。あ。い。え

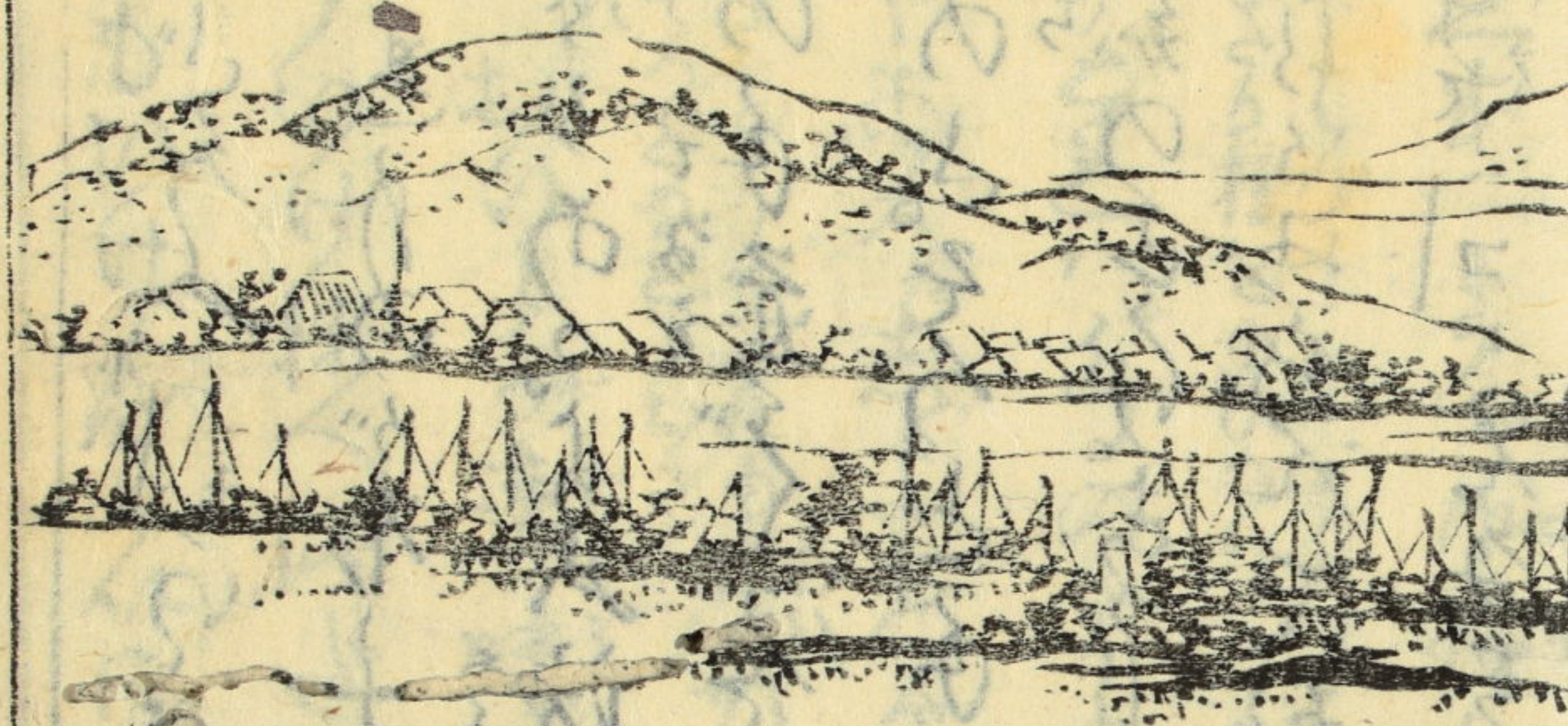
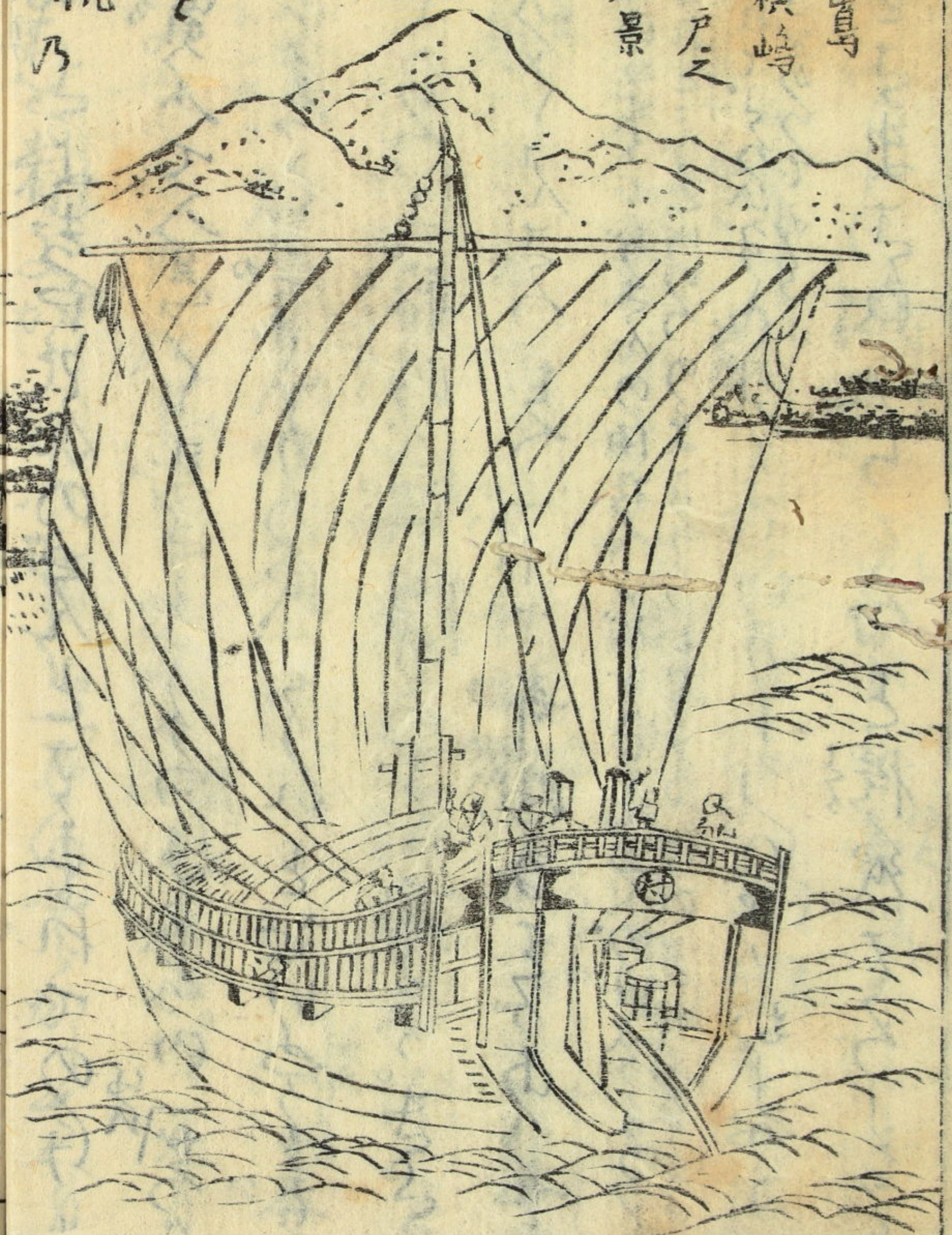
柳島
 横嶋
 顔戸之
 風景

山と
 帆乃

夕陽の
 紅

海
 の

一九



中
 多移と

清き

ぎ

中

子か

邑二

あぐろととりひるがしら入つおび入つちやらんぬのぐらゝのま
うらあひち井百葉のあぐろとちりごき尾のちりごきつごきうら
鞘すうけあ 北東あ山さくさるる入海乃
うや五里余 北東あ山さくさるる入海乃
深さう。鞘より入抄あさるる繁昌の地なれ
ばうらぐの商家残るかさるる。殊は築地の
新地あ。抄女町さどあうて中ふさ一の深
さうのとぞ。

目の新へ青海系とてうら
えろ孔雀の尾の道の沖

これより 録修とらるる。南の方山伏の深戸
免うりの深戸。鼻る深戸さんどりみとるう
砂見砂 新地砂とてささる。深戸甲とりあのり
あうらう一尺 かのあさる コリヤスミ子ヤ。月とあけん
うら。かふとさめさるる。あつささあう「エイ
ゆちふどもりみとさるる。さるるさるるさるる
しん「一盞やろみ。さるるさるるさるるさるる
せあ「エイとれう子ヤトかのさるるさるるさるる
おせう中をひるさるるさるる「コレスミヤ。

こころのへげさうひんどう喰やせんう「エイ。うら
いふてもんませぬらん。おどれ喉からいおんま
三年の足ども二本あるらん。あうも、あふあふ
らんといおどれらんひあうさぢやあう。ト他の男とまきあうるをうた
そのこころのうらふあういふまき酒樽をさぐ。コリヤその酒
おどるであういと月ひき袖ひきいてるあうとあせう
どもこころへはうせ。時よあ合のおえ酒ひとうさふあ
う。トいふまきせんらん。ハハ有うふさうやせん
一向無調法でさうやと「そらんやのほろのあ

かうハ「イヤアうらんもト戸で「一本もやさうやをぬ
「ひあのせんらんふまき不待までさうやせんらん
な「イヤアうらんもさけとりんあのおひかうみて
いらんりのや。さうやれかうせんあふよとがらん
コリヤスエはういふらんれ。エイ「コレ「その様トヤ
ろらんりやまき千が折角さうらんが。あとのゆ遠で
りらんらん。らんる船どもで。その酒をあうさう。政
が「そらんりの「やらんらん包の仲の仲。さう

どもばと せやん トさぐりてありきづきと アハハ

捨別ある酒也。うまいく 耳 おあうい。い

下戸で残ぬい トあうい ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

下戸の正路酒とんてん ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

さるを年いはいと 少ハハのどきとめく ぐうまうまのむきとんてん

どぞ。なんでもよくさうむん。あうーあうらも
ひとりのでんやせう。コリヤもみん

彼の

の、あつのとてあうや、^{タニ}イニヤうら。そのふ

りちむさんけよ。よふひすせぬ^{タニ}これか

むさんとがあらめい^{タニ}むさんともくさうん

せかうーやらん。阿伏鬼のローが念^{タニ}ひく

ふくさう。ふめらうーうめく。やあうさ

このうらのおどまんよめが。葉金の中^{タニ}乃

うめらとす^{スリユホ}あーまうくはいてや

ねさよ。ちうさめが遠^{タニ}あうくあそびあうさ

子や。とうどさんらづらのあさよ。とうだくさうあ

屑^{タニ}もあうさうされあうさ。中^{タニ}事ーぐんさ

コリヤむさんとああうさ。その屑^{タニ}も。せん^{タニ}ん

りうてひうさうて。あうあうさあうさ。さう

さう。なづうつらう。あうさ。あうさ。あうさ

あうさ。あうさ。あうさ。あうさ。あうさ。あうさ

備後國
尾之道

ゆや

船

もろ

又

長

さ

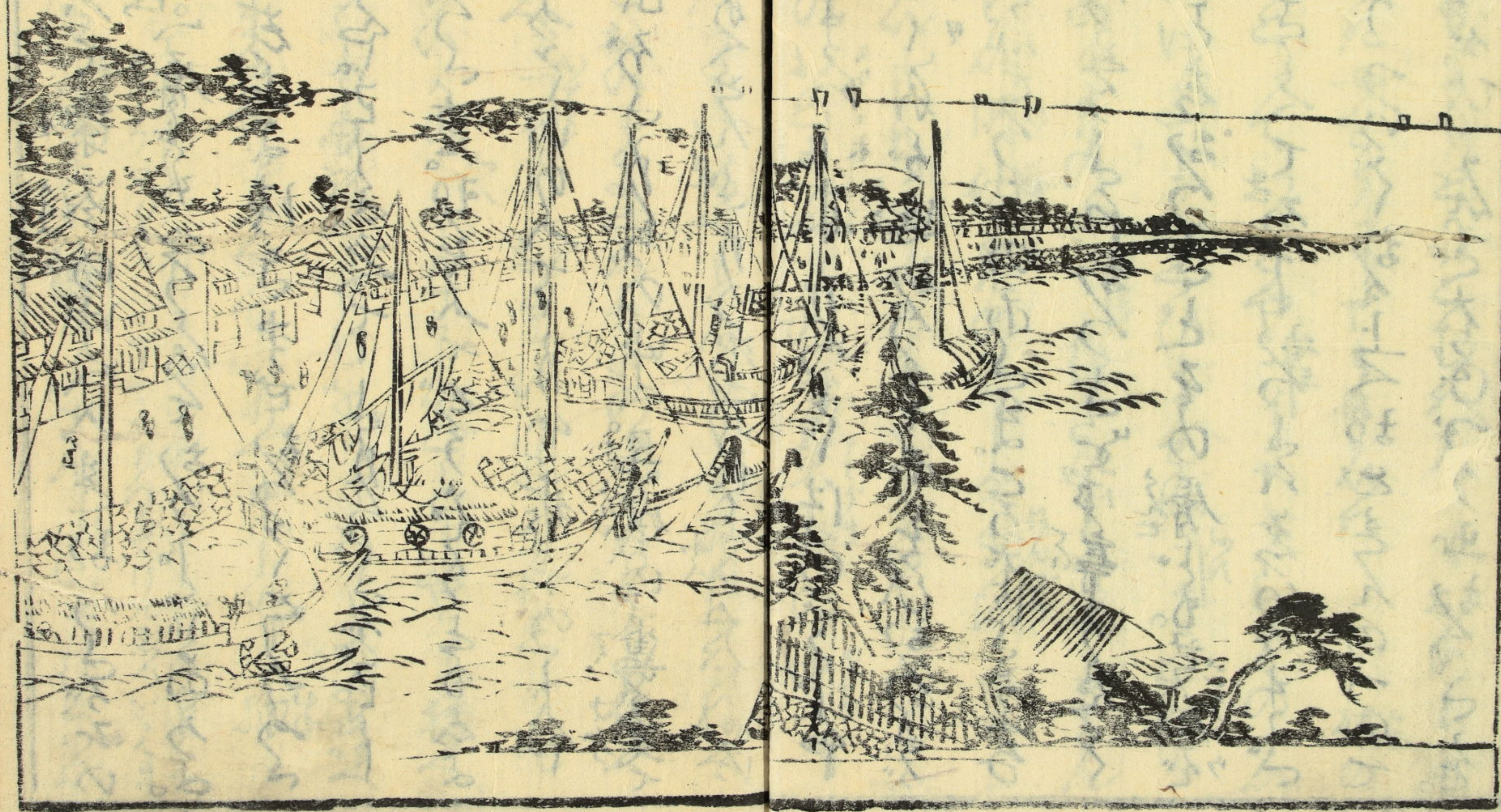
備後

ふりて

あ

あ

十送
一舎
九



母でござる。入て紫^{むら}茶^{あは}の中へ入是^{こゝ}おつた。その
 ときふと餅^{もち}へ着^{つく}きもさうなことをおつた。やあるよ。
 そと中りつゝあふはさすぜおつた。さうする
 うんめいらしや。さうよ。之をさうする。さうぞー
 そと紙えおつた。ケニ。むをみてどうなるともあふ
 とがうん。まうさういのみでりてあふのどや
 りぬの「+」にけり。さうらの中子^{こども}供^{ども}の置^{置き}か交^{かわ}
 居^いる。さうおめくさんぶりの紙をつぎ。イロあ

おせうどのわ。さる福くともなく。ちぬかえね
りの決るぜあつてよこせいのびがやうも移入
ばくかういふ。おきうのぐいそれとん
テニ。多のぶやまのくみ。ナニとんとどしやア移入
酒といやアろくでも移入さけを。イヤろくでも移入
餅と人よのますせやアがつていめす。ア、物か
らろくつるで。ゲエリト。悪徳のえぶりちのゆゑを
ケロイ。こうてありむじけんあるとんま
く。その中へたる。おせう
ユウチ何ちみさん。そむとん
の中へまづつてなく

ござりやと ^男サあめづるあめまじこちん
どちりて二階^{ふた}どののや間^まめちづりて
りんせ^女よふち出るあれすい。ころちやへ
おふあめ^きかせト ^{めまのし}下^{くだ}めるあど^ま宣^{のり}入
女のひあどとまふさうが。まふさうで移^{うつ}入^いま
りのよめ^{はに}「さりあまふさうさう移^{うつ}入^いま
女のことといふら。ど^か男^{おとこ}ど「おのふをたしあま
せとおいて。さだけとまふさうで。そふさうさう

さそ移^{うつ}入^いま ^{あめま}「こハよふあ^{あめ}海^{うみ}でさあめま
お宣^{のり}ハ^{えん}糸^{いと}清^{きよ}でぶいせんらな ^い「エとさうま
さめりや ^{あめ}「さあはくめさ。今^{いま}後^{あと}うら
いもかこのお喜^きとまふ。お燈^{あき}明^{あき}とま上^{あが}るあれ
まふ^まケ^こ。まあ^ま糸^{いと}清^{きよ}もつらい。さねす。てタさう
あうりと糸^{いと}清^{きよ}あれかせト ^{あめ}「ひささからさう
あめま^{あめ}とまふ。あめま ^{あめ}「さうあどつらやまふ。さ
あめま^{あめ}とまふ。あめま ^{あめ}「さうあどつらやまふ。さ
へあめ^{あめ}「さうあどつらやまふ。さ

の
 女
 けり
 とも
 お
 来
 る
 の
 上
 へ
 ト
 女
 の
 め
 ん
 の
 ま
 う
 ち
 つ
 れ
 く

ト女のめんまのま
うちつれく。

[illegible]

陸^ハ登^ハりてせめふ也急ぐや諸人よ

[illegible]

とよ 山さんの 宮みや巡めぐりとりみるあまとも。夜中やちゆう

のころにバ先^こ暖^あ内の末^ち社の^やものとあつたよ

巡行
しを
たふ
るに
て
松
た
ふ
り
か

下
あ
い
ど
な
あ
よ
き
ふ
と
う
ろ
う
ん
お
定
め

依^よ搦^なぶ。又^{また}け^け歸^{かへ}るも
依^よ搦^なぶ。こゝちめんと

男おとこが念ねんがけくわらわす。油あぶら引ひきあるさるる

ハア
二
り
ろ
く
ふ
並
列
し
て
居
る
の
人。
サ
ア

ゆをひふ。ろろりんるせん。トかみ女のもをてふ
りよせんといふれば

女
ホ
。お
ふ
と
せ
と
や
と
う
く
れ
る

ト 仏はとつとどがととりのうまは保てぬ。麻のあつ
つまづけが。麻がどろきとろてとろちあがるよ。ぼろろ

あさひろ ^{ほろ}「ヤアくめんぐく」ト ^{おひらき}あひらきふきか、^{おひらき}無いやく
もろろろろ ^女「フホー」ひびく「ふふぐうぐう」^{おひらき}「ヤ

あまの森でぶんと ^{おひらき}「ナ」無がくううよのやとろ
「あや」さまの「うう」めぶや「え」めんがのあ
るがよ居ちりまふ ^{おひらき}「ア」それであつひ。
そふとへまふぶよ。はまの男のむせうよまへ
あま「ふふふふふ」ナニトあふくへ ^{おひらき}「ふふふふ」
「あま」あまがふふふふふ ^{おひらき}「あま」あまへ

あまぶとへあれころ ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
人つる「ふふふふ」^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
右うら ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
あま「ふふふふ」^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
そんろけあまふふと ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
おと「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
あま「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ
あま「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ ^{おひらき}「あま」あまへ

ふびさんるあ紙くづ祓。トコろさの根れと

あふ〜「ア」くあまアやぶるせへ「ド」くあま

トあふりうえれば又藤があらで「ア」く「ア」く「ア」く「ア」く

まをと持よあふせやアがう。らあへすいやふ

ト石をひらいてやう。藤はうらつらと「ト」イ藤よ藤よ

うらあふ。あふ「ト」やあふまふまふつけるぞ

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く

あふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」くあふ「ア」く



け方のものだ。いゝな。コリヤくそ。ロゲさへ
いゝや。身も寄をあらうひある。風呂さう入へ。
外の後人ともとさぬへ入る。まじ書院びん
ろふ。身もより余人とさぬへ入りあつて
^{アハ}アハそれはいらそ。ありませぬ。あんなぐい
はさうあるぞ。ナノ雪隠ども。只今をぶる。来
るぞ。エイくきば。さうなる。さうなる。さうなる。

[illegible]

取

あまのり

あてがふハハせんくかくしおきこるべからずしを
出少とんのうち少てびまぬりしとこより人

何ぞん

いふおれふもとくれ

ひろやふくしあけぞ

さぐてけとさうハ、猿さると乗のりちびさうし、乗のりハ犬いぬのもく、可い也なりと
さうさうし、猿さるハ、犬いぬの全ぜん部ぶはあつちうかて、二ふた人にんさうし、さうし、

こひの、あゝとかんぐくふりてはこれとさうくなくとも。麻衣
 ともし、仲使つうとしてふのりのこれよりまはされびらううよんせ
 おそりもてさうのもはやどのすこ憲よりさる様とびらきてはぎうたのらんや
 よざれど、うーりんとさるゆえさうさうりてゆるうちもきこをくらが
 んだげしうるやんぢうとむをやくさうてくらふびらうよ、うとう様利にあてもの
 をもきりのなればそのまがりやーするおといかんぐくさるちさうさうて
 くらふと、はなとつろさうさうに、はなけりちーぞさる人のげしう。
 そとさあさういこさうりさうしそ

さうなる志願人

七
うそ
さうく
ひんろ
之へ
まて

三

伊ヤまふ。ちんどうふくらねくりまふ。

それ

大
 そんな
 ありやう
 うめげな
 ぞト
 又ひやう
 だげな
 かと、
 藤あさこよ

ひろひて
くろく

方をりあれ福人の。ゆきざらへ

ふあうん あうん ぞんくハせなぞんくがうん

おさるをり。そとさぐうすれとゆさるさぐかの様入毛こ
さういびうさうくをひつこませバ操もこそくふでて

や
下
めんご描ごそふな。シウシイ
ト四うちを中ゆハミ
梅のうゝるやうさう。

海濱にもうとんりくづらぶやくと寝てゐるうち、何となく人のある
あゝおとのよなぶくろいとたものあるおとをいへさう耳をさして

女あはれとでせんその様もハのやとこよびちづりーのあるとせうち

[illegible]

かちりつはやくおどろきこれゆきづつといふてなるのあきるい

かもの上へけあがりらんちようきりのぞうきんうんどうーど
ととふしゆえーお侍の少少んさゝ多々どびつぱそれもちうとちう

ちどろをうてあつるとまゝく 秘めふちとろを 何とせんとかまゝ
 ちどろをうてあつるとまゝく 秘めふちとろを 何とせんとかまゝ

よちよしとんざうとちとちまゐ人のお徳とちり火打とちつけとち
 ちつちあは火とちり足れば犬のちとちる大張一疋とちの雲とちり

かくみぞをまゝさへハとあやうれたて大工よりひきやうをもちのり
 ようよしとされてゐるゆゆはふハいひやうをえん人合せ式とまゝの

懐いりもかきうつゝるささるをよふしとむすめをうけて大に喜びを
するあてもせんとのうんぢうかうで大方こころのまるといひんぞ

いんげん
あひね
は

うらくと懐よやうまーおんぢうの

あんは相遠な親の赤恥

かく打興ドて、少八もありつゝのらぐひることを
かうりあぐさまで、打ちしるが一膳の愛乃
うらゝ遠寺の鐘ひびきしる、鶯の愛家よ
うゝいて、夜中あけしるよ。おきし山は宿の
亭主ありて、ふ遠寺一宮めづりしる。何と
きむらゝ、少はくハ鞠の仕女がひひしる。何と
かりしよかりしる。由かく、き難めてこの終は

つぎしる。よろこびよ。つぎしる。それよ。さうさ。だ
とて、食事その（案内者のおと）しる。その
打つて、まを立出ゆ。よ。青物有るど。さうて
女の賣のり。さうて、めづりしる。又けしる。その
名物とて、深楊枝とる家ありし。

聖殿とありし。せりし。神の町
さうし。齒をせりし。さうし。さうし。
かくて、はしよのり。しる。法大師の宝塔をさうて。

衛^{きんぎ}の宮^{みや}のあつうよりうる「モ」案内^{あんない}のお人。
 け文^{ぶん}へ何^{なん}とまよふ程^{ほど}。東^{あづま}「これバ」やよみ
 ちとん^{ちとん}の「そ」てろが二筋^{ふたぢい}ある。フリ
 ざうち^{ざうち}のうそのざう「それ」それもちとん
 ざうん^{ざうん}それで「ちとん」はあつうのあつうつて。
 ちとん^{ちとん}の「ちとん」のちとん「ちとん」案内^{あんない}は
 ちとん^{ちとん}「ちとん」やよみ「ちとん」の
 「ちとん」をちとん「ちとん」やよみ「ちとん」の

「サイナローヤ上^{うへ}ご^ごか^かと^とやうく^くけ^けるさんど^と
 ぐみ。け^けさ^された^たの^の太^{たい}日^じ堂^{どう}の^の祓^{はら}き^きさ^さで^で翌^{あした}日^{じつ}あ^あと^とよ
 い^いと^とが^があ^あり^りし^しぶ^ぶ。そ^それ^れも^も見^みさ^され^れて^てよ^よふ^ふお^おぶ^ぶて
 ド^ドや^やる^るい^いさ^さる^るい^い。ロー^{ロー}ヤ^ヤい^いと^とお^おい^いと^とい^いわ^わら^らと^とあ^あの^の
 宿^{しゆく}屋^やの^の且^{かつ}非^ひ^{ふん}ど^どの^のう^う。あ^あい^いん^んの^の屋^やさ^さと^とい^いでも
 あ^あの^のえ^えめ^めい^いて^てド^ドや^やら^らう^う。け^けら^らて^てり^りけ^けば^ばあ^ある^る
 さ^さる^るい^い。ひ^ひと^とよ^よい^いけ^けて^て。ち^ちり^りよ^よお^おと^とー^ーて^てよ^よあ^ある^る
 ロー^{ロー}い^いる^る。ソ^ソリ^リヤ^ヤア^アさん^{さん}ぶ^ぶな^なる^る。よ^よい^いア^アさ^さー^ー

のうてはるがあれ移へ。だんくらんせま
一ノ雅えいふると聞つてんやんせ。それどや
のうまよあまのさるん。ぐぐぐやうめ。人よ
うね移るこよ。このるまさーと受けのあ移へ
まてそーうらこーあてんやんあよ。トこのうら
女まじりの大でいづれ。僕の男よべんとうさあるど
りこせでいづれもほまげんのちどうあーあて
おごまふんてあちのおごれんれがよるべ
あとい。りてちるはるばるてあきあきある

とおひふさうらよ。あふれよふな子がでけ。
あふんがひる。あふがひるホドやあごらりや
やさぬ。あふもはけぢよ。やうらくと
そつらでかのろよきやうくまふん。さるふ
まふれぬ。あ稲いねあさまの巾見あみ早はやや。トトコ
トコナクワイトモくけ屋いう。何といふ
さうへ出るぞいな。さるのへ。何でや。けをあたさる
ドやあふん。あふんがひるあふるとはるうん

とく名物のめりとうる茶屋あり

峠の名のちうりゆうせよ夜はうど

通ぐんノはきくや夫婦一軒らん

それより西頼大日堂のあつりよいつる。これ

より上の山又町むうの岡行きのまじ社

多一。是と巡洋とるを宮めぐりといふとぞ

一盃呑くもつこふやア移る。おん

向ふの茶屋よ。い娘かふる。おハぢよとく

イオロ。この茶屋へいけんらん

まぜー。サイノ笑みされ。此近在のさ

今持が妻ありて。プー。のんでやさん

あこの娘ちうてこまそと。おとくいふと

ソリヤあひありや。ま度金ひきでやろ

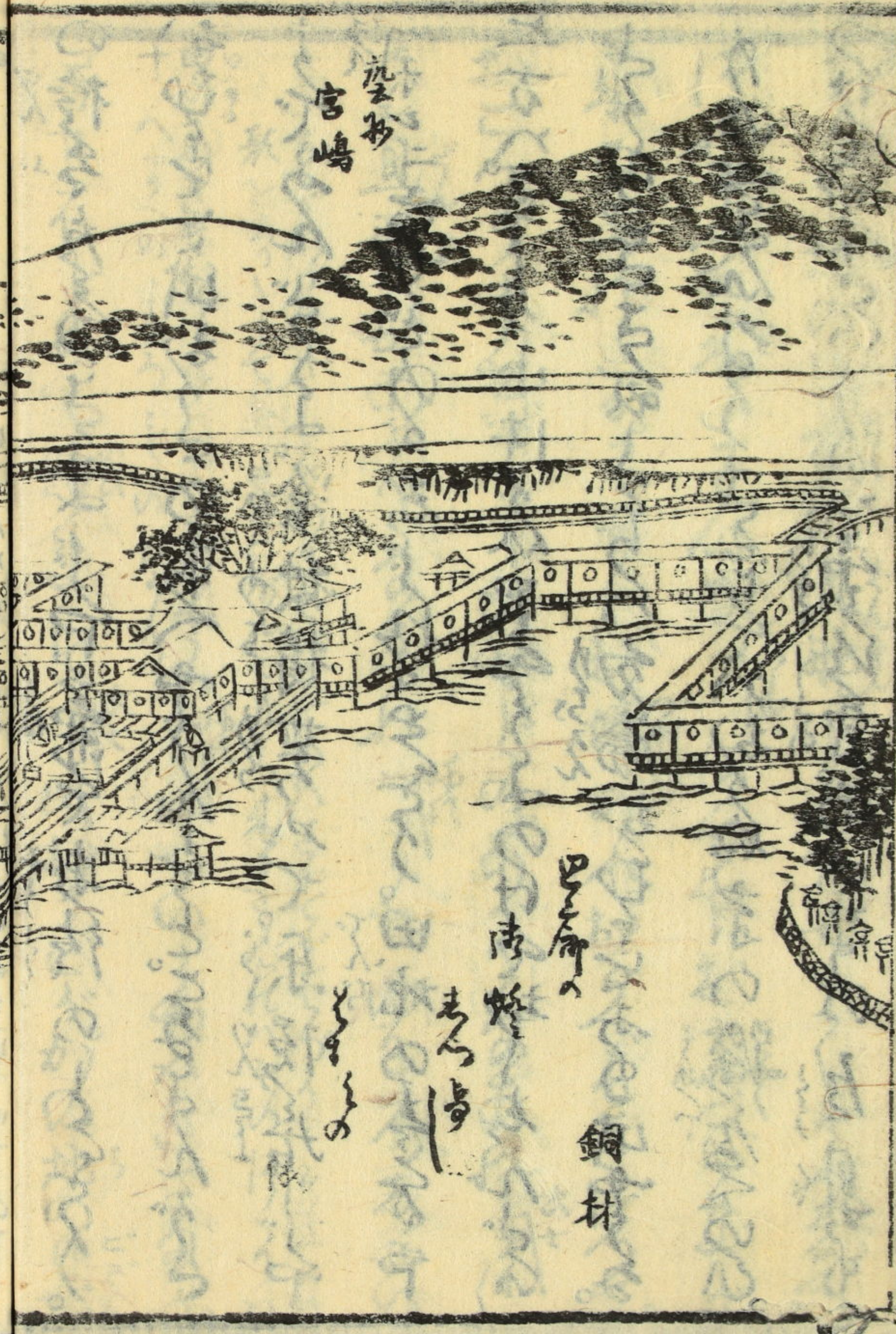
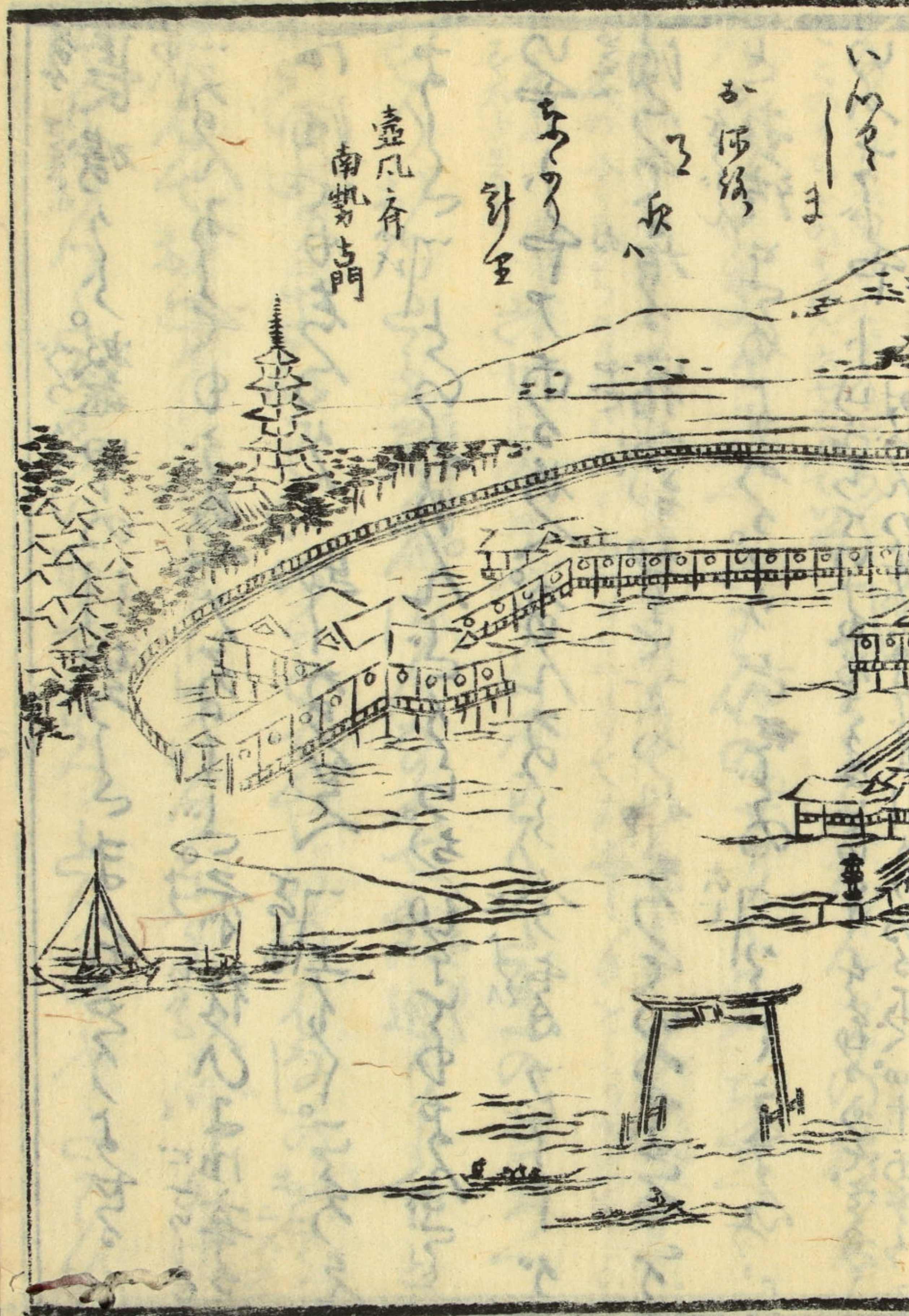
ふんて。お徳はでけふ。その旦那どんが

娘えよとて。いんすふまやあやれんさう

あこの肉でん。ぢよと。毎月プーの

コリヤちぢめて逃まよして
 けあふこががの地の
 十へまよのしうものなり
 四今ふめそちりけれども
 教をあらうして茶とど
 ト、うであぐらぶまよ
 エミ且那あぐらまよ
 おこづりませ。サア
 来なあれいろ。コリ
 ほれちめてまよいろ
 アイ地の
 ぼれちめてまよいろ
 来なあれいろ。コリ
 おこづりませ。サア
 エミ且那あぐらまよ
 ト、うであぐらぶまよ
 教をあらうして茶とど
 四今ふめそちりけれども
 十へまよのしうものなり
 コリヤちぢめて逃まよして
 けあふこががの地の

の格^ぐをたつとまじや。兼てお侍^{さむらい}のとぞう。
おしどといおうこのふくやさんにと。こなさんご
うでめんどうよ。合持^{あいちり}笑^{わら}みて。楽隠居^{らくいんきょ}ぢや
^後
コレニおせどのが志^しもね。とぞう。田地^{でんち}のまをや
二万へ。ローが小ぼろんアヤうよのけとおくあんご
うら。ささぬーとらん勿論^{もちろん}おもしろとあるけやな。
のぞるなりとせそはあらね。京の海^{うみ}をくひ
つけてさうといりの六平^{ろっぺい}舟^{ふね}を。おさまの良具^{りょうぐ}も



それおやアはまゝ移へ。ほれさんぢみさん
イヤ、^{ほれ}木のどくまるのぢや。あんがいのさんせうら
そとやでぢやで来おつてケニ。そのぢやどもかしてやう。
おとていつんせ トいつちぢやのうらうらいつちぢやのうらうら
かどとらぢや。コリヤあうがてへさんめら おうりヤヤ
せう。ヤヨぢや兵のふけえ。ぢやのうらうらぢや。
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
せんめらおめらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
せんめらおめらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

いめらーイヤ、^{ほれ}けんぢやせん。アノ男ひうらうら
アノ何のうらうら。ぢやかぢやかぢやかぢやかぢやかぢやか
けんニけんニけんニけんニけんニけんニけんニけんニけんニ
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
のせと来おつてのうらうら。けんがけんがけんがけんがけんが
けんがけんがけんがけんがけんがけんがけんがけんがけんが
けんがけんがけんがけんがけんがけんがけんがけんがけんが

てけるるおせし引あんどあひびるがかが今^{かん}ためし

はまきふていしんあくらあらのゴリヤかきし

居れんふんトのひさまおどをよびやしてりうらんうけい

くしきしせんうんあめのかさどとあううともものうめくまん^{あひ}連け

くろくがづのよんうーるんでせんうあめくぞうくやぐそく^{あひ}りく

これより中ふまの紀^きりんまへんこのくくぞうく

よづけ本へられぞうく

續篠栗毛二編下巻終

